

説教余滴、2018年6月17日、処々啼鳥を聞く

この時期、鳥たちの繁殖期なのではないでしょうか。小鳥が良くさえずっています。朝早く、外に出ると、周囲の樹林から聞こえてきます。ホトトギス（不如帰・時鳥）やウグイスは在来種で日本の空気・風景になじんだ感じがあります。それらを圧するほどの感じは、コジュケイとガビチョウです。

ガビチョウは特定外来生物に指定されています。中国から東南アジア、台湾に生息するチメドリ科の小鳥。1980年代以降に九州北部本州各地に分布を広げ、1991年には相模原市で確認され、2001年以降、横浜市周辺でも見られるようになっています。この20年間、急速に分布を拡大している新外来種です。20～25センチと言います。声と同様大きな小鳥と言いたくなります。

ガビチョウの調査に当たった人たちの報告では、囀りによって発見した例はなく、採餌もしくは移動中にその姿を確認したそうです。田浦の梅林へ行くと、その姿は見えなくとも、けたたましいほどの鳴き声ですぐにわかります。ある人は、「エーケービーフォーティーエイト」と聞こえる、と書いています。

コジュケイは、もっと古い外来生物です。27～30センチ、ドバトと同じくらいの大きさ。

色は山鳥と似ている、と感じられます。大正8（1919）年、旭硝子の社長であった岩崎俊弥氏が、上海から東京・赤坂の邸宅に連れてき手、飼育したものです。今では完全に帰化して、その鳴き声で親しまれています。日本語では「チョットコイ」、「カアチャンコワイ」と聞からしい。英語では、**people when, one two three**, と聞くそうです。

私が初めて聞いて記憶しているのは神学校時代。卒業後は昭和43（1968）年、私学共済、葉山の相洋閣でした。大阪、札幌では聞いていません。南関東に適応したのでしょうか。